

分野：Ⅱ COPDに関する調査研究
② COPD 患者の ICT を活用した在宅の呼吸リハビリテーションの効果検証

Ⅱ-②

委託業務名：COPD患者に対するICTを用いた低頻度外来呼吸リハビリテーションの効果検証

調査研究代表者氏名：松野圭

1 評価項目						
5点:大変優れている(A判定) 4点:優れている(B判定) 3点:普通(C判定) 2点:やや劣っている(D判定) 1点:劣っている(E判定)						
	5点	4点	3点	2点	1点	平均点
(2) 研究成果目標の達成度	0人	0人	1人	5人	0人	2.17
(3) 研究計画の妥当性	0人	2人	4人	0人	0人	3.33
個別評価(第3評価):(2)(3)の平均						2.75
(6) 総合評価(第2評価)	0人	0人	4人	2人	0人	2.67
全体評価(第1評価):(2)(3)(6)の平均						2.72

2 記述評価
・症例数が少なすぎる。 ・家庭におけるリハビリテーション持続の方策が不十分である。 ・第15期に継続できる研究成果がこのままでは乏しい。 ・この研究内容では、在宅のリハビリテーションが適応になると想定している患者群が不明瞭です。パイロットスタディの段階から、健康アスリートを対象に選択してデータを集積していることも最初の質問を投げかける原因の一つですが、適切な計画を立てて成果を出すことを再考して下さい。在宅のリハビリテーションがきちんとした動作で行われているかの画像によるチェック方法や生理学的な指標による客観的な評価法についても計画を明らかにして実行することが必要です。ところで本方法によるリハビリ治療の診療報酬に対する考えは持っておられますか。 ・対象数が少なすぎて内容の評価ができない。至急、対象症例数を増やす取り組みが必要である。 ・症例数の増加を含めて、次年度までには十分な成果を期待します。 ・高齢者COPDに対するICT応用の困難さや問題点を提示している。 ・適格症例から除外された症例が多く、登録症例に偏りがあることが危惧される。当初計画された症例数を確保した上で、症例にバイアスが存在する可能性を考慮した解析が望まれる。